

# 岐阜農林事務所の普及活動状況

平成29年4月26日現在

## 今月の重点活動

### ■だいこん GAP現地調査実施

4月14日、JAぎふだいこん部会の岐阜市則武、鷺山地区の部会員9名を対象に、独自GAPの現地調査が行われた。

内部監査員である部会役員とJAぎふ、JA全農岐阜、農業普及課の担当者が部会員宅を訪問し、34の点検項目について、聞き取りや現物確認などを行った。34項目中22項目については、全会員が適正管理できていたが、土壌診断を実施していなかったり、農薬の飛散防止対策が不十分な事例が確認された。

今後、農業普及課では、調査結果を取りまとめ、改善が必要な項目についてのフォローアップとGAP手法導入等に向けた支援を行っていく予定である。

(園芸産地支援第一係・高橋幸蔵)



【GAP現地調査の様子】

## 新たなブランドづくり

### ■にんじん 産官学連携協定締結される

4月7日、各務原市役所において、市、JAぎふ、市商工会議所、東海学院大学の4組織からなる、にんじんを使った産地消振興のための協定が締結された。

協定では、加工品や地元飲食店提供用レシピの開発を目的としており、特に加工品については、2年後の製造・販売を目指している。

農業普及課は、協定の目標達成に向けて、にんじん産地振興計画推進の一環として支援していく予定である。

(地域支援第二係・魚住雅信)



【にんじんペーストを使用したパン試作品】

## 多様な担い手づくり

### ■えだまめ 岐女短学生にえだまめ講義

4月21日、岐阜市立岐阜女子短期大学において、岐女短生協ピーチクラブの学生を対象に、JAぎふ及び農業普及課の担当者から、えだまめの産地概要、岐阜えだまめの特徴、防虫ネット栽培などの講義を行った。

この取り組みは、えだまめの農業体験を通じて、ものづくりの大変さや重要性、食の意味などを考えてもらうことを目的としており、今年で6回目となる。

今後、農業普及課では、えだまめの定植作業や収穫体験、半日農業体験などを通じて、食農教育支援を行っていく計画である。

(園芸産地支援第一係・川部 知)



【えだまめの講義】

## 売れるブランドづくり

### ■水稻 新品種栽培研修会開催

JAぎふ管内では、売れる米づくり推進等の一環として、業務用・飼料用米に適した新品種(ほしじるし、とよめき、ちほみのり)に取り組む農家が増え、これら新品種の安定生産が課題となっている。

4月5日、JAぎふアグリパークにおいて、水稻新品種栽培研修会が開催され、JA全農岐阜から、多収性品種の取組み概要、栽培管理等について、農業普及課から、品種特性及び今年のほしじるし、あき



【研修会の様子】

だわらの生育調査結果、今後の新品種の位置づけ等について説明した。

今後、農業普及課では、生育調査、栽培管理指導を実施し、新品種の生産安定を図ることとしている。  
(地域支援第三係・岡田隆史)

### ■アスパラガス 栽培研修会開催

4月18日、JAぎふ羽島市アスパラガス部会は、部会員のほ場において、栽培研修会を開催した。

農業普及課から、立茎のポイントについて説明し、部会員と意見交換を行った。また、昨年実施した土壌診断結果についても説明し、適正な塩基バランスを保てていないほ場があることから、土壌診断を継続して実施していくことの必要性と土壌養分を考慮した施肥改善について周知した。

農業普及課では、今後ともアスパラガスの安定生産に向けて、栽培管理の指導や情報提供を行う予定である。  
(園芸産地支援第一係・松浦香絵)



【栽培研修会の様子】

### ■ブロッコリー 春ブロッコリー現地研修会開催

4月25日、JAぎふ西部地域春ブロッコリー研究会は、全会員参加のもと、各栽培ほ場を巡回する現地研修会を開催した。

今年度は、定植後の乾燥により活着が遅れたが、現在の生育は順調で、出蓄し始めたほ場も確認できた。初出荷は5月中旬頃を見込んでいる。

農業普及課からは、今後発生が見込まれる病虫害対策や適期収穫について指導した。  
(地域支援第一係・稲葉千佳)



【現地研修会の様子】

### ■ブドウ 長良果樹振興会ぶどう部会・現地研修会開催

4月20日、長良果樹振興会ぶどう部会の現地研修会が、岐阜市長良のぶどう園で開催され、ほぼ全員約40名の生産者が集まった。

研修会では、農業普及課から、ぶどうの生育状況や栽培管理について、(株)協和発酵バイオから、ジベレリン処理方法について説明した。ジベレリン処理は、高品質なぶどうを生産するため、非常に重要な作業として生産者の関心は高く、農業普及課からは、4月は気温変動が激しく処理適期の把握が難しいため、生育状況に合わせ、処理適期を逃さないよう指導した。

また、東海クボタ(株)からは、作業軽労化を目的としたアシストスーツ「ラクベスト」の実演会も行われ、生産者は高い関心を寄せていた。

(園芸産地支援第二係・西垣 孝)



【現地研修会の様子】

## 住みよい農村づくり

### ■いちご ぎふ清流ハーフマラソンで岐阜いちごPR

4月23日、岐阜市で開催された第7回ぎふ清流ハーフマラソンにおいて、JAぎふ岐阜市いちご部会青年部及び岐阜市による岐阜市産いちごのPR活動が行われ、農業普及課も支援した。

当日は、ヘタ取りした濃姫や美濃娘のいちご3粒が入った紙コップ総計370kgをランナーに手渡し、岐阜いちごをPRした。このPR活動は、今年で5年目になることから、いちごの提供を楽しみにしているランナーも多く、好評であった。

今後も、農業普及課では、岐阜いちごのPRや消費拡大に繋がる活動について、積極的に支援していく予定である。  
(園芸産地支援第一係・三和浩一)



【岐阜いちご配布】